

児童・思春期コホート学術講演会

人生早期の心身の発達と生涯のメンタルヘルス

～英国MRC出生コホート戦略～

1946年3月から約5000名の新生児を対象として開始された「1946全英国家出生コホート研究」の追跡期間が2011年3月で65年に到達することが2011年3月のNature誌において報告されました

この間、出生から発達・成長を遂げ、老いに至るまで、膨大な発達や健康の情報が蓄積され、遺伝と環境と発達（ライフステージ）の相互作用を解明する研究が進んでいます。

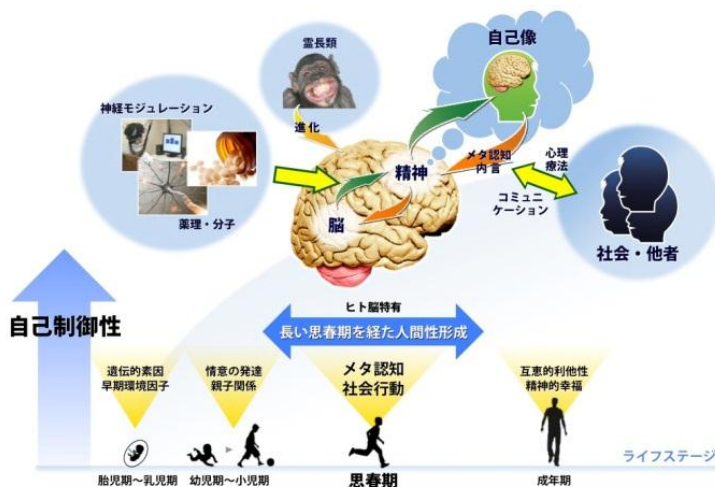
今回は、1946全英出生国家コホート研究において中心的な役割を果たしているマーカス・リチャーズ博士にご来日いただき、英国のコホート国家戦略をご紹介いただくとともに、特に人生早期の認知機能発達と生涯のメンタルヘルス、身体的成長と精神機能の成長の相互関係についてご講演いただきます。



マーカス・リチャーズ博士

Marcus Richards PhD

英国医学研究協議会(MRC)
生涯にわたる健康と加齢
研究プロジェクト責任者
ロンドン大学公衆衛生科学部
認知疫学教授



これまでに、ニューヨークのコロンビア大学精神科および、ロンドン王立精神医学研究所において加齢による神経変性疾患に関する研究に携わる。1996年より、MRC（医学研究機構）における健康と発達に関するリサーチ・チームのメンバーになり、主として精神の加齢に関する生涯にわたるアプローチ法の開発、および、身体健康と機能の問題への統合をテーマに研究。「認知機能の発達と老化」をテーマに様々な研究成果の報告を重ね、英国の教育や保健に関する多くの提言を行っている。

2012年2月13日（月）

開場17:30 / 講演18:00～19:00

東京大学大学院医学系研究科

教育研究棟・第6セミナー室（13階）



主催：文部科学省新学術領域「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」（代表：笠井清登）

共催：東京大学 こころの発達と障害の教育研究コンソーシアム

文部科学省新学術領域「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」

東京都医学総合研究所 心の健康づくりのための予防・治療・リハビリ法プロジェクト